

お薬のしおり

お薬手帳について No.101 (H22.5)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんは、薬局でお薬を受け取るときや病院に入院したときなどに「お薬手帳は持っていますか？」と尋ねられたことがあると思います。今ではお薬手帳という名前は多くの人が聞いたことがあると思いますが、積極的に活用しているとは言えないのが現状です。今回はお薬手帳の内容と使い方のポイントについて紹介します。

“手帳”を辞書で調べますと「常に携帯して心覚えを記入する小形の帳面。手控え。」とあります。ですから、お薬手帳はお薬に関する情報を忘れないために記入するものであり、主に患者さん自身の情報とお薬の情報と大きく2つの情報を記入していくものです。

★患者さん情報

1. お名前・生年月日・年齢・血液型・性別・住所・電話番号
2. アレルギーの有無
3. 今までの副作用歴
4. 今までにかかれた病気など

★お薬の情報

1. 病院や薬局で今までに飲んでいたお薬の名前や用量
2. ドラッグストアなどで買った市販のお薬やサプリメントの名前など

普通の手帳は文房具屋さんに売っていますが、お薬手帳は薬局や病院からもらうことができます。また、複数の薬局や病院でお薬をいただいている患者さんは、それぞれの薬局・病院からデザインが違うお薬手帳を受け取ることがあると思います。

デザインが違うから異なったものであると考えてしまうかもしれません。しかし、お薬手帳は全て共通しているので数冊のお薬手帳を持っている時には、全ての情報を1冊のお薬手帳にまとめて書いておくと、お薬の情報が一元化されて、医師や薬剤師に情報が上手く伝えることができます。

お薬手帳はお薬を受け取るときに使用することが知られていますが、他にもいろいろな場面で利用をしたり、お薬の情報以外のことを記入しても大丈夫です。



《お薬手帳を上手く使うポイント》

1. 医師や歯科医師、薬剤師などに「今飲んでいるお薬は何ですか？」と尋ねられた時に、お薬の名前が思い出せずに困ったことはないですか？こんな時お薬手帳を持っていれば、お薬手帳を手渡すだけで、医師や歯科医師、薬剤師に自分の飲んでいるお薬の名前や今まで記録を教えることができるようになります。新しく処方されたお薬と今まで飲んでいたお薬の相互作用も分かるようになります。
2. 薬局で処方薬を受け取る時やドラッグストアで市販のお薬やサプリメントなどを買う時にもお薬手帳を持参するといいいでしょう。薬局の薬剤師に現在服用しているお薬との相互作用をチェックしてもらうことで、より安全にお薬を飲むことができます。
3. お薬だけではなく、患者さん自身の体調や医師などへの質問のメモ帳として利用して、情報伝達を簡単・正確に行うことができます。
4. 緊急に病院に搬送された時や災害時にお薬手帳を携帯していると、現在飲んでいるお薬やサプリメントが分かり、緊急処置をスムーズに行うことが出来るようになります。
5. 副作用を起こした薬をメモしておくことで同じ副作用を繰り返さないようにすることが出来るようになります。

なお、お薬手帳自体には費用はかかりませんが、薬剤師にお薬の記録を行ってもらうと、費用（20円～50円程度：保険の負担割合で変化します）がかかります。しかし、初めから自分で記入をすることを薬剤師に伝え、自分で記入を行うと費用は掛りません。（ただし、薬の名前を間違っで記入してはせっかくのお薬手帳が無意味になってしまいますので注意して下さい）

また、毎回同じ薬が処方されているので、お薬手帳に記入しなくても良いのではないかと考えてしまいますが、「新しい薬が処方された時にいつも飲んでいる薬と一緒に大丈夫かな？」と感じた時などに記入してあると薬剤師が調べる際にはとても便利です。

お薬手帳はみなさんのお薬の歴史であり、医師や薬剤師との情報伝達をスムーズに行えるなど様々な役割を果たしています。現在お薬手帳を使っている人は、これからもよりいっそう有効利用していただき、また、使っていない人はこれから積極的に使っていただき、安全かつ有効にお薬を使用してください。

